

FSCの設立趣旨

土地、植物、動物及びそれらを取り巻く環境を生命系として教育・研究を行うとともに、これらの研究成果を通して、広く地域社会の発展に寄与することを目的とする。

シープシェアラー-Sheep Shearer-とは

プロの毛刈り職人の技術

5月某日、十和田農場の羊たちは一斉に毛刈りをされ、みんなつつるの姿になりました。例年ですと、農場職員が仕事の合間をみても毛刈りハサミ一本で地道に1頭1頭刈っていきます。我々が羊1頭の毛刈りに要する時間は早くも20分ほど。羊の体格や大人しさなどで左右します。普通毛刈りは、羊をよっこいしょとひっくり返すか、座らせた状態で行います。しかし、この体勢は羊にとっては苦痛そのもの。結構苦しいんです。そのため、我慢の利かない羊は大暴れすることもあります。そしてどんどん作業時間が長くなり、羊も人もどんどん苦しくなっていくという悪循環なのです。

ご存じの方も多いかと思いますが、現在十和田農場は慢性的な人手不足。なおかつ実習や牧草管理など繁忙期を迎えているため、今年は羊の毛刈りのプロ、山本雪さんに依頼し、20頭の羊を1日ですっきりさっぱり丸刈りにしてもらいました。1頭当たりで費やした時間はなんとわずか5分ほど。その技術は思わず見惚れてしまうほどスムーズで、まるでナイフでりんごの皮をむいているかのようにスルスルと毛が刈り取られていきます。

ところで、皆さんはシープシェアラーという言葉をご存じでしょうか。日本では聞き慣れない言葉ですが、羊の毛刈り職人のことをオーストラリアやニュージーランドではそう呼びます。なんとなくイメージはできると思いますが、羊の数が数だけに、現地には羊の毛刈りを専門に行う職人さんがいるのです。オーストラリアでは最も過酷な職業といわれているそうです。そして、このシープシェアラーは日本にも何人かいらっしゃいます。今回依頼した山本雪さんは、オーストラリアやニュージーランドで修業を重ね、世界的な毛刈りの大会にも出場している実力者です。



(写真) 山本雪さん
サフォーク種の毛刈りの様子

毛刈り当日は、関わりのある学生さんたちも見学してもらいました。我々職員も、プロの毛刈りを見学するのは初めてです。ハサミとバリカン、使っている道具は違えど、羊の保定の仕方や皮膚の伸ばし方など、大変勉強になりました。何人かの学生さんは、実際に羊をひっくり返すところや、バリカンを使った毛刈りを体験させていただきました。また、山本雪さんの現地での体験談や、今の仕事に就いた経緯などもお話ししてくださり、学生さんたちにとってもとても貴重な経験になったと思います。

今回は急遽お願いすることになり、一部の学生さんしか見学できなかったのですが、来年はより多くの学生さんたちが参加できるような形を考えています。

次号の予定と編集後記

7月～8月 八雲牧場実習

今号のどうぶつ紹介はお休みします。6月に入った途端に冷え冷えした日が続きましたが、なんとか一番草を収穫することができました！と思ったらじわじわ暑い日が続きますね…皆様、体調にはお気を付けてください！

(編集：岩城)

